教科又は教職に関する科目

日本史Ⅰ

社会科教育講座・川岡勉

１．授業の概要

この授業の目的は，社会科における基本的な教養として，日本史（前近代）における主要なテーマを取り上げて考察し，日本社会の特質を理解するところにある。

到達目標として掲げたのは，(1)日本における国家と社会の歴史に関する基礎的な知識を獲得する，(2)日本史を中国や朝鮮など東アジア世界との関わりにおいて捉える視点を獲得する，(3)日本の国家と社会の歴史を踏まえて，これからの社会のあり方や改革の方向について，自分の考えをまとめ論述する力を身につける，の３項目である。

関連するＤＰは，教育に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解），である。

学校教育教員養成課程の初等教育コース（小学校サブコース）の学生 19 名（２年生），同課程の中等教育コースの学生７名（２年生），総合人間形成課程人間社会デザインコースの学生１名（３年生），学校教育教員養成課程学校教育基礎コースの学生１名（４年生），大学院教育学研究科特別支援教育専攻の学生１名の合計 29 名の学生が履修登録をしていたが，そのうち２名はほとんど出席しておらず，27 名で授業を進めた。

授業で取り上げた内容は，概ね例年通りであったが，次の４コマのテーマは新たな内容に差し替えた。

第 9 回　中世の倭寇はどういう集団で、どのような役割を果したのか

第 10 回　天下統一は地域の人々にとってどのような意味を持つものであったか

第 11 回　近世（江戸時代）の村はどのようにして支配･運営されたのか

第 12 回　近世（江戸時代）の反体制運動はどのようなものであったか

２．授業時間外学習の促進

授業の進め方としては，あらかじめ次回のテーマについて調べてきてペーパーにまとめさせておき，授業ではそれを読み上げさせながら解説を加える形をとった。毎回の授業で提出させたペーパーと，最終試験をもとに成績評価を行った。

３．アンケート結果

最後の授業時に授業評価アンケートをとり，27 名の学生から回答を得た。

まず，この授業は教員にふさわしい資質を育てる上で役にたつと思うかを問うたところ，14 名が「とてもそう思う」，13 名が「ややそう思う」と回答した。そう判断した理由として，「学生を主体として，単なる知識を得るだけでなく因果関係を考察することができた」，「調べたことを文章にまとめる力や，まとめたことを分かりやすく発表する力が育てられた」，「他者の意見を聞くことで多角的に歴史をみることができた」などの意見が寄せられた。自分はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだと思うかを問うたところ，「とてもそう思う」が 13 名，「ややそう思う」が 13 名，「あまり思わない」が１名という結果であった。授業の目的・到達目標に照らした達成度を問うたところ，概ね達成した，レベルアップしたという回答がある一方，まだ力不足である，もっと深く学習したいという回答もあった。授業の改善すべき点を問うたところ，もう少し板書を整理して欲しいという注文があったほか，学生同士の討論の場を設けてはどうかという意見もあった。

４．総括

取り上げた内容は，授業者が日本史において重要と考えるテーマであり，学生にそれを自分で調べ考える経験をさせることで，暗記教科というイメージを払拭し，日本史全体の特徴を理解させようと努めた。受講者の多くは本授業を肯定的に受け止めており，他国と比較し日本を内外から見直すことによって，日本史の特徴を考えることができたのはよかったとする意見が複数寄せられた。学生の調べ学習をさらに充実させ，それを授業にどう活かすべきか，今後とも検討していきたい。